

今日のキーワード「消費者物価」は上昇の見込み(米国)

「消費者物価(CPI)」は、全米の人口の約87%を占める都市部の消費者が購入する財とサービスの総合的な価格の動きを指数化したものです。そのうち価格の変動が大きいエネルギー、食品を除いた総合指数は「コアCPI」と呼ばれ、米連邦準備理事会(FRB)も注目しています。最近の「コアCPI」上昇率を見ると、依然としてFRBの目標値(+2%)を下回っています。

ポイント1 低位で安定する「コアCPI」上昇率

FRBの目標値(+2%)を下回っている

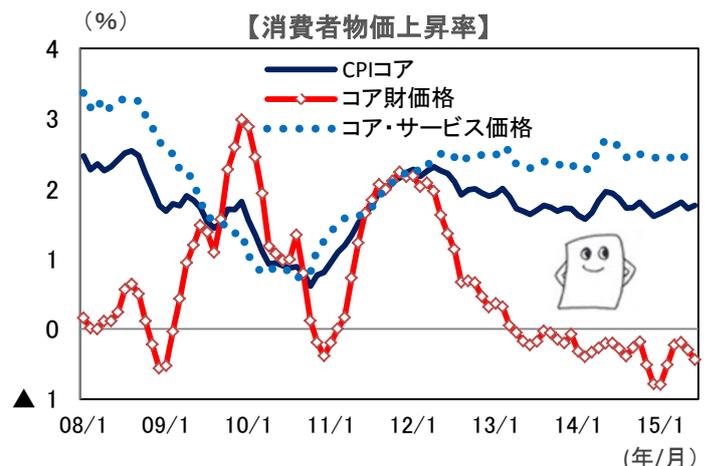
- 6月の「コアCPI」は、前年同月比+1.8%の上昇となりました。昨年2月の同+1.6%を直近の底として緩やかな上昇トレンドを描いていますが、FRBが目標とする+2%を依然として下回っています。
- 「コアCPI」を財価格とサービス価格に分けて見ると、6月は財価格が同▲0.4%の下落だったのに対して、サービス価格が同+2.5%の上昇でした。

ポイント2 財価格は商品市況、サービス価格は労働需給の影響を受ける

サービス価格は上昇トレンドを持続、財価格は年内値下がりが続く見込み

- 「コアCPI」の約22%を占める「コア財価格」は、輸入物価や原材料価格などの影響を強く受けます。しかも、こうした価格に対して3~6か月ほど遅れて動く傾向があります。原油価格には底入れの徴候が見られますが、この時間差を踏まえると、「コア財価格」の値下りは年内いっぱい続く可能性が高いと考えられます。

- 一方、「コアCPI」の約78%を占める「コア・サービス価格」は、労働需給の逼迫度合いに応じて変動します。サービス価格の大部分は人件費によって占められているためです。労働市場の改善が続いていることから、「コア・サービス価格」は今後も上昇を続けると予想されます。



(注) データは2008年1月~2015年6月。前年同月比。
(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 「消費者物価」の低位安定から利上げが開始されてもペースは緩慢

■今後も「消費者物価」は低位安定が続く見通し

「コア・サービス価格」は上昇が続くと予想されるものの、「コア財価格」の値下りが足枷となるため、「消費者物価」の上昇率が年内に+2%に到達する可能性は低いと見られます。

■利上げが実施されても、ペースは緩慢

労働市場の改善を背景に、早ければ9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが決定される見込みですが、物価が落ち着いているため、利上げのペースは緩慢になると予想されます。

ここも
チェック!

2015年08月06日 米国のISM景況感指数(2015年7月)
2015年07月31日 米国のGDP成長率(4-6月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。